

“ジャーナリスト育成” という社会的使命

～その歴史的役割と展望～

本学法学部新聞学科は昭和22年8月、「平和国家として又、文化国家として更正する日本の現状及将来にとって、新聞の担う使命の重大さに鑑み、新聞に関する科学的研究と新聞人として活躍せんとする人材の育成を主眼とする」という目的のもとで設立され、以来、70年余の歴史を歩んできました。

新聞学科はどのようにしてその役割を果たしてきたのか、また現状におけるジャーナリスト育成の可能性や問題点は何か、将来に向けて何を考えるべきか。ジャーナリスト育成およびジャーナリズム教育に携わってきた本学科の教員、また本学科出身のジャーナリスト、そして他大学の専門家などを交え、議論します。

日時 **2018年11月30日(金)**
18時20分～21時

場所 **日本大学法学部10号館 1011講堂**

※東京都千代田区神田三崎町2-3-1
(<https://www.law.nihon-u.ac.jp/access.html>)

参加 無料／事前申し込みの必要はありません

報告

- ①小林聡明(日本大学法学部准教授)
戦後日本のジャーナリスト教育とコロンビア大学
—1940年代後半～50年代の日本人派遣プログラムと民間財団の役割を中心に
- ②石川徳幸(日本大学法学部准教授)
大学教育における「新聞学科」の発展と展開

パネルディスカッション

- ①大井眞二(日本大学法学部教授)
- ②山本賢二(日本大学法学部教授)
- ③柳澤伸司(立命館大学産業社会学部教授)
- ④有吉 敏(神奈川新聞・横須賀支社長)